



スクールロイヤーを子どもの視点から考える 地域円卓会議

スクールロイヤーってなぜ必要？
子どもの視点から考えるスクールロイヤー円卓会議

実施報告書

日 時： 2021 年 1 月 7 日（木） 18:30-21:10
場 所： オンライン会議システム（zoom）
主 催： 一般財団法人鎌倉フェローシップ
協 力： 公益財団法人みらいファンド沖縄、NPO 法人まちなか研究所わくわく

報告書作成
NPO 法人まちなか研究所わくわく
公益財団法人みらいファンド沖縄

ACTIVITY REPORT

【報告】スクールロイヤーを子どもの視点から考える地域円卓会議



■日 時：2021年1月7日（木）18:30-21:10
■場 所：オンライン会議システム（zoom）
■着席者数：7名（論点提供者、司会、記録者含む）
■参加者数：21名（NPO・市民団体、福祉・医療機関等）

■主 催：一般財団法人鎌倉フェローシップ
■協 力：公益財団法人みらいファンド沖縄
NPO 法人まちなか研究所わくわく
■お問合せ：NPO 法人まちなか研究所わくわく

論点提供

櫻井 理人 氏

（弁護士法人サイオン総合法律事務所 弁護士）

スクールロイヤーってなぜ必要？

子どもの視点から考えるスクールロイヤー円卓会議

子どもたちの法へのアクセス権を担保し、生徒の最善の利益を目指すための新しいポジションスクールロイヤー。スクールロイヤーって何ができるのか、また、なぜスクールロイヤーが必要なのかを議論します。

センターメンバー



横井 理人
弁護士法人サイオン
総合法律事務所
弁護士



鎌倉 淳爾
一般財団法人
鎌倉フェローシップ
代表理事



横江 崇
美ら島法律事務所
弁護士



大谷 欣人
沖縄県公立中学校
元教員



前泊 美紀
那覇市議会
議員

➤ 地域円卓会議の動画記録



- ・公開日：2021 年 4 月 2 日
- ・再生回数：6 回（4/2 時点）
- ・URL：<https://youtu.be/-jxIeBcEIoU>

➤ 今後のアプローチの方向性（提案）

- 1) スクールロイヤー制度の目的「子どもの最善の利益の実現」の意図を、まずは子ども・家族・地域社会、そして学校と共有し、その必要性を合意しよう
- 2) スクールロイヤーに求められる職能は、子どもに寄り添いながら、法教育・人権教育等の啓発も含めた能力と言える。人材育成と供給体制は今後の課題
- 3) 学校に何かの課題が発生した際、積極的に法律家を座組に入れ、法アクセスにより解決した事例を積み上げながら、政策提言の材料を増やしていこう

■参加者によるサブセッション

スクールロイヤーってなぜ必要？

子どもの視点から考えるスクールロイヤー円卓会議

(参加者記載の原文をそのまま記載している為、事実と異なることがあります。グループ毎に①、②・・・と記載)

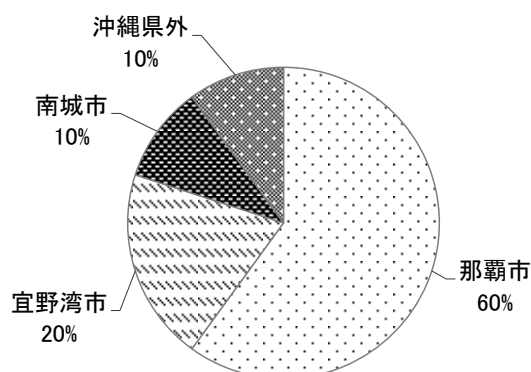
- ① スクールロイヤーに色々な形態があることを知った 常駐型以外
 - ・スクールソーシャルワーカーが繋ぎとして弁護士と学校の間に入るとよりスムーズではないか
- ② 小学校の現場で感じたこと。授業を受けられない子どもや先生の残業の多さ（心の余裕の確保が必要）⇒労働者の権利の部分もスクールロイヤーの立場で関わっていけるのではないかと？
 - ・学校という特殊な環境に、法をもって改善できることが多い。（労働問題含む）
 - ・教師や生徒、親の立場だけの意見ではない第三者として相談できる立場がいる重要性
 - ・社会に出たときに自分の人権がどう保証されているのか？という部分を教えてくれる役割に
 - ・人権と道徳がごっちゃになっている部分を切り分けて教師にもわかってもらえるとうい。
 - ・先生たちへの法的倫理を教えることもスクールロイヤーの仕事なのではないか？
- ③ アクセス権をどう担保するか。
 - ・弁護士に相談できること、いろんなルートを活用して、うまく機能するのか。
 - ・いじめや自殺の問題、その他小さなトラブル
 - ・学校内の透明性を高める。
 - ・学校の生徒/教師の立場(権力)の差
 - ・学校、教師のガラパゴス化、教師に新しい視点が入る。
- ④ 子供の最善の利益の為に。学校の中にズレがある場合は率直に指摘する
 - ・実務経験がない場合は難しい
 - ・事実認定をたたきこまれる
 - ・学校の実事確認について指摘することもある「感想」
 - ・武田氏・・・スクールロイヤー（常駐型）きれいごとでなく、ほとんどの先生が生とのために頑張っている
 - ・それは守りたい。
 - ・いじめ対策防止法。。厳しく適用すると混乱が生じる。現場を踏まえて適用する人がスクールロイヤーとして適任
 - ・アンテナをはってズレに気付くことが必要
- ⑤ 外部の公正な立場の人が入る事で風通しが良くなる
 - ・オンブズマン制度がある事で、本音で言える

スクールロイヤーを子どもの視点から考える地域円卓会議 参加者アンケート集計

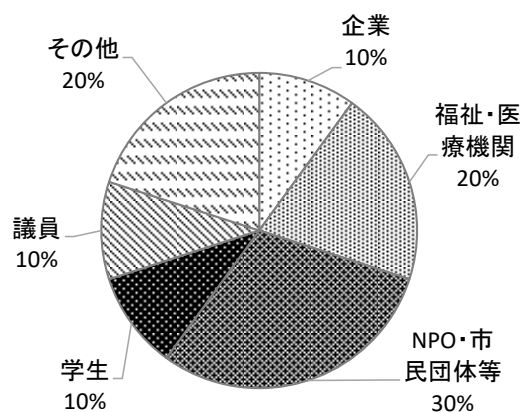
◆概要

- ・日時：2021年1月7日（木）18:30-21:10
- ・場所：オンライン会議システム（zoom）
- ・着席者：7名（論点提供者、司会、記録者含む）
- ・参加者：21名（アンケート回収10名、回収率48%）

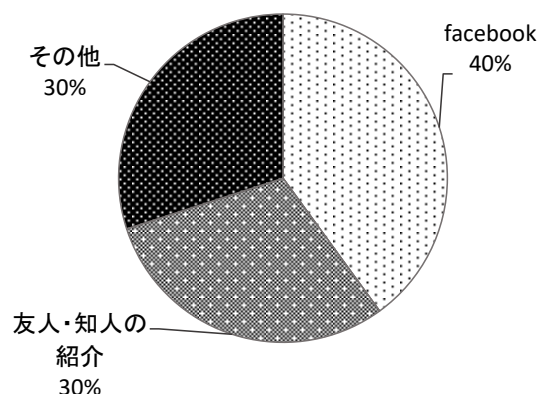
1. お住まいの市町村



2. 所属



3. 円卓会議をどのように知ったか



4. 満足度

平均：4.4（5点中）

5.満足	4.概ね満足	3.普通	2.あまり満足していない	1.不満足
4名	6名	0名	0名	0名

5. 満足度の理由

（5. 満足）

- ・新しい知識を得ることができた
- ・スクールロイヤーを普及させるために、最前線でご活躍されている弁護士の先生方や政治家の先生のお話が聞けて良かった。
- ・経験者の生の声を聞けたこと。
- ・大谷さんのお話：司法試験の勉強は法律の解釈適用が主たるものなので、弁護士が教育にどのように関わっていけるのかという疑問がありました。大谷さんのお話から、①弁護士の意見は、弁護士の立場からの学校外の人の意見として受け入れやすいことや、②弁護士が話を聞くことで当事者の思い違いが修正されたり、当事者間の認識の食い違いが修正されたりすることが、現場の教師から期待されていることを知りました。
- ・スクールロイヤーを経験された弁護士の先生のお話：大多数の学校の先生方は子ども達のために一生懸命であり、学校の先生方にシンパシーを覚えるという経験を聞けました。そこで、例えば子供と教師の対立が激化した際に、スクールロイヤーはどのような態度をとることが子供の最善の利益につながるのだろうかと思いました。なぜなら、スクールロイヤーは（おそらく）立場上子どもより教師と接する濃度が高く、教師に対してシンパシーを覚えやすい存在であり、対立が激化した場合に事情をよく知る専門家としてその事実認識や評価が重視される存在でもあるので、その意見が子ども

ものの利益に反してしまうのではないかと思います。弁護士は弁護士倫理として利益相反を避けるために相談を受けた人の相手方の依頼を受けないとか、裁判では各弁護士の主張を中立な第三者としての裁判官が判断するとして制度上中立性が図られています。スクールロイヤーはどうか。

- ・ 沖縄県ですでにスタートしているスクールロイヤー制度について弁護士・元教師・議員という異なった立場からの報告や検証はとて分り易く日頃から重い課題を抱えている子どもと学校という場で向き合うSSWrとして学校という閉鎖的な組織に専門職として介入することの難しさ、そしてなにより学校という現場に（特に管理職）に「子どもの最善の利益」という概念が根付いていない中で活動することの難しさを改めて知りました。私がグループセッションで提案したSSWrをハブとして活用することについても興味をもって下さって嬉しく思いました。今まで子どもシェルターの理事としての繋がりから東京弁護士会や埼玉県弁護士会の子ども委員会の弁護士さんたちに直接お願いして支援して頂いていましたが、埼玉県でもスクールロイヤー制度が出来ることを望みます。（現在はさいたま市のみ）円卓会議という温かみが画面越しに伝わってきて時間があっという間に過ぎました。

（４．概ね満足）

- ・ グループセッションの時間が短かった感じがします。
- ・ マスコミや学校側の意見も聞いてみたかった。
- ・ 円卓会議の在り方を学べた他、スクールロイヤーの必要性についても考えるきっかけとなり有意義でした。

- ・ 円卓会議の様子を見ることができた。スクールロイヤーについて知ることができた
- ・ スクールロイヤーを配置する意義、現状の課題など、多くのことを学べた。
- ・ 根拠をもって、スクールロイヤーの必要性がわかった。様々な立場の人からの提言が聞け、またグループに分かれて話し合いができたのも良かった

6. 円卓会議で印象に残ったこと

- ・ 生徒、学校職員が人権、子どもの権利に合わせて、ソーシャルワークに関する基本的な知見を持てるといいなと思いました。
- ・ 子どもの最善の利益のためにスクールロイヤーが機能できたら、現状の子供をとりまく様々な課題解決の糸口になるのではないと思った。
- ・ スクールソーシャルワーカーが多様な弁護士、教師、親、子どもをつなぐキーパーソンになりえるという意見。まさにソーシャルワークの専門性が発揮できる視点だが、身分が不安定（給与も低い！）な現状では難しいのかなあとも思いました。
- ・ 中立性という意味では、スクールカウンセラーと同じ立ち位置。子供のころから弁護士が身近にいて法律がもっと身近なものになると思う。
- ・ 『子供の最善の利益』という言葉が印象的でした。
- ・ まとめ板書が分かりやすかったです。ワードやパワポと異なり、手書きの柔らかさや紙面の使い方の自由さや色合いが良かったです。
- ・ 現在教職を学んでいるが、学校事故やクレーム対応などの話を聞くたびに、教職に対するネガティブなイメージが強くなる。しかし、今回スクールロイヤーを学校現場に配置する意義や意見を沢山聞き、学校側がその有意性を理解し上手く連携できれば、

教員も精神的に余裕を持って児童生徒と関わっていけるだろうと思った。子どものためにも、教師のためにも、この先さらに配置が進んでいったほしいと思った。

- ・ 円卓というまさに顔の見える仕掛けがとても温かみがあり、またファシリテーターの力量と記録者の力量が今まで私が参加した色々な研修（特に官制研修）とは全く違い3時間という尺でできうる限りの成果があったと思います。リモートと対面のハイブリッドで画面を共有しながら論点提供者の主張を聴いたあと、グループセッションを行ったこともとても良い流れでした。これまでのハイブリッドでは中継形式で質問はチャットでという形式が多かったので、昨日の仕掛けは大変良かったと思います。願わくばもう少しグループセッションの時間があったらよかったかなと感じました。
- ・ オンブズパーソン制度や、スクールソーシャルワーカーはぜひ学校現場に取り入れた

い

スクールロイヤーを子どもの視点から考える 地域円卓会議

オンライン

地域の困り事を
社会課題とい
共有・共感する場

92回目

2021.1.7(木)
18:30-21:10

テーマ スクールロイヤーってなぜ必要？

子どもの視点から考えるスクールロイヤー円卓会議

主催 一般財団法人鎌倉フェローシップ

協力 みらいファンド沖縄、まちなか研究所わくわく

主催者あいさつ

鎌倉津南 (-財)鎌倉フェローシップ 代表

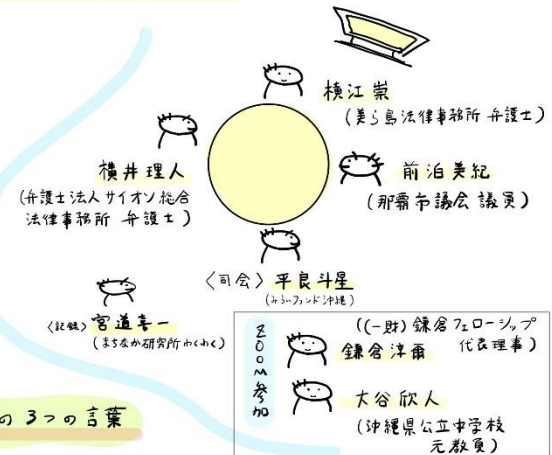
沖縄ロースクール
給付型奨学金
18年目

選考
法系→教育問題への関心高い
スクールロイヤー制度スタート

司法試験受けた方
地域かんげん (法曹の知識ある人)

横山巖先生の3つの言葉

2021.1.7 第1回



論点提供

横井 理人 さん (弁護士)

子どもの権利

いじめ予防授業

教育現場へ法律の視点必要

“スクールロイヤー” 認知されはじめた

制度の目的・使命

子どもの最善の利益の実現

ホリスティック立場で

スクールロイヤーは、子どもの視点から

損害ばいしょうで入っていく → もっと前
交上りから入る。 予防の重要性

明確な職責内容定めてない

学校に入り、常駐型 (3年前どうでも)

定期訪問型 (巡回型)

相談型 (99%)

(自治体予算
弁護士をかり) など
影響

教育委員会

校長・教頭

担任

子ども

誰が
アクセスするのか

相談型

↑

↓

常駐型

《経イ》

いじめ問題

大津事件

学校・保ご者 からのニーズ

守ってほしい

《事例》

・損害ばいしょうの不安

・情報公開 消極的になりがち

法的リスク がわからない

・適当的 な対応へ

・保ご者との信頼関係

相談の
タイミング大事

顧問の弁護士
へ相談しづらいことも

子どもの最善の
利益

依頼者の最善の利益

制度上アクセス
のキョリ

2021.1.7 第2回

横江 崇 (弁護士)

- 学校の問題 いろいろあるが主 9割はない
- コミュニケーション など 他の手と異なるスタイル 必要

子どもの人権

不登校・問題行動 ▼ 各種データより

- いじめ 件数 減っている (認知件数: 全国より 9割)
- 不登校・退学
- 高校 中退率

不 686 → 1260 (小)
H28 R1

子どもの最善の利益

ワラントの利益

議論重ねてきた

利益相反の問題

校則の問題

よりよい
学校へ。

学校が子どもたちにどう居てほしいのか
場になっていないか？

子どもの最善の利益
権利
個別最適化した
学校教育制度

子どものSOS
をひく

子どもの参画
意見表明

まずは
学校からの相談

そして 子どもから
のSOSへ

2021.1.7 ③

大谷 欣人 (元教員)
沖縄県公立中学 元教員

沖縄で教員・理科の先生

子どもたちの幸せを考えてやりたかった
どこかでズレていくことも

学校の中での守らねばならないこと。

外からとりのこされていることに気づかない
20年前 やっていたこと やってしまう

お互い 言いづらい

他からのアドバイス 聞きづらい

法律家のこと 聞きやすい

スクールカウンセラー 15年

先生以外の人 が 学校に いる こと の 意味
ズレを認識

中立の立場 今ではなくてはならない

横江

ちっぴよ、きりつを守ること (学校)

人権は自由が基本

子どもたちに説明できる
合理的理由

子どもたちが自分たちで
ルールをつくる

自分たちがやっていることが正しいのか
保ごうの不信感
何かかズれている

2021.1.7 ④

前泊 美紀 (那覇市議)

- 2019.12月 市議会 で 賛同 スクールロイヤーについて
- 子どもの権利条例 を求めている
- 2019.9 文相 300人 全国へ 配置
- 「こども大法」との 出会い
- 「自分で自分の身も守れたかもしれない」
こどものとき

にける力 (スクール
カウンセラー) たちむかう力 (知識)
(スクール
ロイヤー)

- コロンボギ士 がいるから (市教委)

↑
ちがいがわからない

コロンボギ士 にくときを 交上している

子ども支援 できるかわからない

未だにp6に 早く発見する 様々な特恵分野ある

2021.1.7 5

高校でのうごきはある

県全体で取り組むのが現実的

那覇市から声あけてもよい

市民の声は?

- 教員負担の軽減
- 外からのチーム対応への期待

